



9/6 — 9/15

イントレランス 6巻無声 米1916

監督……………D・W・グリフィス

出演

バビロン篇……………コンスタンス・タルマツチ

アルフレッド・バジニェット

シイナ・オウエン

エルマー・クリフトン

ユダヤ篇……………

ベッシー・ラブ

リアン・グランドン

ニリッヒ・フォン・ストロハイム

中世篇……………

マアゲリ・ウィルソン

ユウジン・ボレット

ジョセフィン・クロウエル

現代篇……………

ロバート・ハロン

メエ・マアシュ

ミリアム・クーパー

ラルフ・ルイス

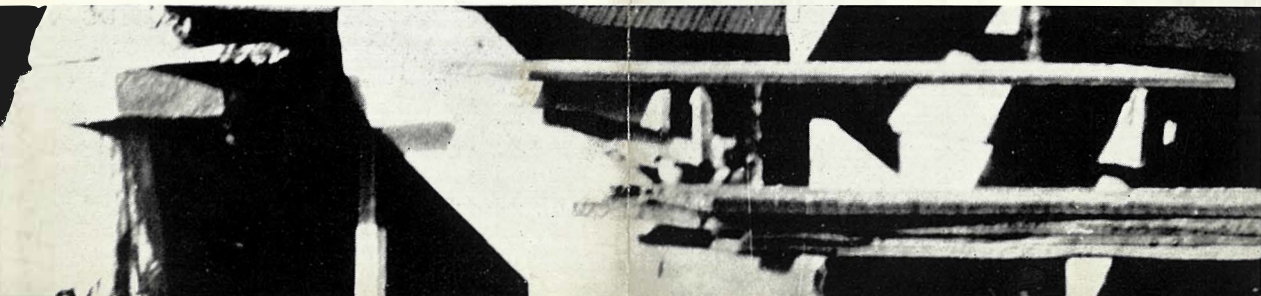
アメリカ映画史上に不朽の一頁をのこしたD・W・グリフィスはアメリカ映画というより少し誇張して言えば、今日の劇映画で行われている表現上の数々の映画文法を発見し、映画という新しい芸術形式を生みだしたといえよう。イントレランスはグリフィスの代表的名作の一つで全13巻190万ドルの巨費を投じて製作した映画である。この映画は現代篇とバビロンの没落をえがくバビロン篇パレスティナにおけるキリストをえがくユダヤ篇聖バアソロミュウ事件を扱う中世篇の四つの物語りから成立しているがその形式は一つの物語りが終って次の物語りに移るのではなく四つの物語りが同時に進行して順次に切換えられて対照的に平行して展開されるのである。

こうした映画の展開形式は当時の一般観覧者には相当難解であった。そのためわが国では帝国劇場での初公開および浅草帝国館での封切りだけはオリジナルで上映されたが、その後は日本の興行者が対照的に平行して展開される物語りをその時代時代の物語りにまとめ編集替えし

国立近代美術館フィルムライブラリー

上映映画解説

1963, 9~10



て上映した。このたび上映する映画も残念ながらオリジナルではなく中世篇を除き現代篇3巻バビロン篇2巻エダヤ篇1巻に編集替えされたイントレランスである。

9/17 — 9/22

ヴァリエテ 10巻無声 独1925

監督・脚色……………E・A・デュボン
原作……………フェリックス・ホレンデル
撮影……………カール・フロイント
配役……………ボス……………エミール・ヤニングス
 その妻……………マリイ・デルシャフト
 ベルタ・マリイ……………リア・ド・ブッテイ
 アルチネーリ……………ワーヴィック・ワード

ドイツサイレント映画黄金期の代表作品の一つである曲芸師の生活を通して人間の恋愛と肉慾と哀愁とを描いた作品。

俳優の背中で芝居をさせたり、カメラを人物の目におきかえたりした点で当時新技巧として絶賛をうけた映画。

9/24 — 9/29

大地 7巻無声 ソ連1930

監督・脚本……………アレクサンドル・ドヴジェンコ
出演……………S・シュクラット
 S・スヴァシェンコ
 U・ソルンツェヴァ

撮影……………ダニール・デムッキー
この映画は第一次五ヶ年計画による農業の集団化をテーマとしてウクライナの自然と建設を絵画的な美しさと、叙事詩風なスタイルで描いた作品で無声時代のソ連映画においてエイゼンシュテンやブドーフキンとは異なった作風である。

ドブジェンコはウクライナ地方の生れで、ハリコフ市で絵を学び、はじめは教師であったが、後に映画界に入りウクライナ共和国の最大の監督となった。

10/1 — 10/6

ピグマリオン 9巻 英1938

監督……………アンソニー・アスキス、レスリー・ハワード
原作・脚本……………バーナード・ショー
音楽……………アルテュール・オネガー
撮影……………ハリイ・ストラドリグ
配役……………ヘンリー・ビギンス……………レスリー・ハワード
 イライザ……………ウェンディ・ヒラー
 ドットリトル……………ウィリフリッド・ロウスン
 ビギンス夫人……………マリー・ローア
 ピカリング大佐……………スコット・サンダーランド
 フレディ……………デビッド・トリー

バーナード・ショーは昔から映画ぎらいで自作の映画化に反対してきたが、ある日海水浴場で知り合った映画プロデューサー、ガブリエル・バスカルに自作の映画化権のいっさいを委譲した。この映画はショーの同名の戯曲からショー自身が脚色して製作したショー作品映画化の第一作である。ギリシアの伝説に名彫刻家ピグマリオンが自作の象牙像ガラディアに恋をし女神フロデアに祈って生命をふきこんでもらう物語りがある。

この伝説をそのまま劇化した例もあるが、バーナード・ショーの戯曲「ピグマリオン」では、20世紀のイギリスの発音学者ヘンリー・ビギンスが、自分が丹精して教えたこんだ花売娘イライザに心をひかれることになっている。映画「ピグマリオン」は1938年6月にロンドンで封切られて大当たりをとり、同年度アメリカのアカデミー賞詮衡で、文豪バーナード・ショーに脚本賞があたえられた。さらに「ピグマリオン」の原戯曲と映画台本を基にしてアラン・ジェイ・ラーナアが作ったミュージカル「マイ・フェア・レディ」（フレデリック・ロウ作曲）は、1956年3月ニューヨークのヘリンジア座で初演、各方面の絶賛の下に最近までロング・ランをつづけていたことが報ぜられている「ピグマリオン」の後に「バーバラ少佐」(1941)「シーザーとクレオパトラ」(1946)「アンドロクレスと獅子」(1952)がつづいて映画化されている。

10/8 — 10/13

ヨーロッパの何処かで

11巻 ハンガリー1946

監督……………ゲザ・ラドバニー
脚色……………ゲザ・ラドバニー、ヴェラ・バラアジュ
撮影……………バルナバーシュ・ヘジー
配役……………老音楽家……………アルトゥル・ショムライ
 ペーテル……………ミクロシュ・ガポール
 エヴァ……………ジュジャ・パーンキ
 ククシ……………ラーソロ・ホルヴァト

戦争によっていためつけられたハンガリーの戦争終了直前から休戦になるまでの浮浪児の生活に取材した映画。戦争の災禍、浮浪児たちが集団化する経路、狂暴になってゆく過程、そして、村人たちに追われた彼等が荒れはてた古城にげこみ、そこに住む一人の老音楽家の愛情によって次第に健康な集団生活をいとなむようになる浮浪児たちの姿を描いた作品。

10/15 — 10/20

ルイジアナ物語 9巻 米1948

監督……………ロバート・フラハーティ
撮影……………リチャード・リーコック
記録映画の先駆者であり最高の作家のひとりであるロバート・フラハーティの最後の作品。水郷ルイジアナに取材したこの映画には記録映画の中でも彼独特な境地をきざぎざあげた、フラハーティの作風がはっきりあらわれている。記録映画にはさまざまな流派があるがフラハーティは自然主義派に属する作家である。フラハーティの作風は、自然と人間に対する深い理解と思いやり、自然と人間の「詩」を感得しうる能力に裏づけられつつ、人びとの生存のための基本的なたたかひのすがたを、美しく印象的な画面によってくりひろげる「牧歌的ドキュメンタリー」と規定できるであろう。彼の作品が見るもの的心をうつ魅力は、以上のような作風によるものである。